

立体基礎演習について

美術教育講座・向川信博

1. 授業の概要

本授業は、立体を造形するうえでの基本的な考え方や見方を、可塑性のある粘土を用いて模刻し学ぶ、立体デッサンの授業である。受講者は、造形芸術コース一回生12名で、平面のデッサンは全員経験を積んでいるが、塑造経験者は数名である。

模刻は回数を重ねる必要性を感じており、一昨年までは2点の制作をおこなっていた。しかし石膏取りを行うとスケジュー尔的にきびしくなり、今年度は、模刻一点と、作品台座制作をおこなった。

制作に入る前の粘土練りや、制作台、心棒造りを各自でおこない、制作終了時ごとに出る石膏くずなど廃棄物もそれぞれが処分するようにし、準備と整理を含めて制作とした。終わりに、取り組み姿勢について考え、自己評価をした。

2. 授業の目的

- ・ 立体造形の基本的な考え方や見方を理解する。
- ・ 粘土を用いた石膏像の模刻を通して造形の基本的な組み立て方を理解する。
- ・ 量感を考える。
- ・ 均衡感を考える。
- ・ 空間を意識する。
- ・ 心棒をつくる。
- ・ 石膏取りができる。

3. 授業のスケジュール

- 第1回 立体構成の基本的な観点や、制作過程のガイダンス
- 第2回 心棒の制作と粘土の準備
- 第3回 クロッキー
- 第4回 肉付け
～ 粘土完成・講評
- 第8回 石膏取りについて
- 第9回 石膏雌型制作
- 第10回 粘土かき出し
- 第11回 石膏流し込み
- 第12回 割出し

第13回 割出し・修整

第14回 台座制作

第15回 合評・総括

4. 用具・材料について

粘土、石膏などの造形材料、粘土用・石膏用籠、心棒用木材、道具等は用意されている。

5. 評価について

取り組み姿勢を勘案し、作品によって評価した。作品評価は、質、完成度のみならず制作過程における追求内容なども含めた。

6. アンケートについて

授業の最終日に以下の項目で自由記述によるアンケート調査をおこなった。

①施設・設備について、②授業内容について、③今回の制作実習で学んだこと、それを今後どのようにいかすか、④その他。

7. アンケート結果（受講生が記述した文章をそのまま転記する。）

①施設・設備について

- ・ 作業をするには狭いかな、と何度か感じました。
- ・ 狭いです。とても狭かったです。後ろにさがつてながめたりしたかったです。
- ・ 工事の影響もあり、作業場所が狭かったのが残念だった。
- ・ 狭かった。工事は長期休暇中に集中してやってほしい。今日思ったが、工事の音がやかましく、発表の音が聞き取りにくく残念だった。
- ・ 暖房もついていて、換気扇もついているので、割と快適だったと思います。荷物を置くところが汚く、前に使った人は、もう少しきれいに掃除すべきではと思いました。
- ・ 換気扇は常に作動させて置いた方がよい。
- ・ 作業中、石膏粉が舞い上がり、非常にけむかった。空気の入れ換えを授業終わりだけでなく定期的にやるべきだったと思う。

- 仕方のないことですが、少し狭かったと思います。
- 床が、がたがた！
- 工事のためか部屋がとても狭かったので、やりにくくはあった。
- せまいと思います。扉が閉まりにくいいうえにすぐ開いてしまいます。
- 石膏を入れるバケツがもう少し大きいといいと思います。

②授業内容について感じたこと

- 初めてのことが多く手順を追うのでいっぱいでした。ものを内側から構築するのは、はじめての経験で新鮮でした。
- 作品の出来に関係ないとすれば、授業自体は楽しみをもって取り組みました。
- 作業ができていない人とできていない人の差がかなりあって、できていない身としては辛いものがあった。時折アドバイスを入れてくれたのはうれしかった。
- 一つの作品を作り出すまでにものすごい作業が必要になってくることがわかりました。
- 制作時、個別に意見を言ってもらえたので進めやすかった。
- わりと自由に作業ができ、先生も聞いたことに答えてくれたのでとてもやりやすかった。
- 彫刻ははじめての試みだったが、丁寧な指導のおかげで楽しくできた。時間も十分にあり、よかった。
- 塊で捉えたり、全体を見たりするという、立体だけでなく全ての作品制作に必要な考え方に気づくことができた。できあがった作品を見ることで、意識の足りない部分にも気づかされた。
- 行程の説明などがとても丁寧だった点が良かったです。でも、作業の途中で他の生徒と進度に差が出ると説明を受けられなかったこともあったので、全行程が書かれたプリントなどあれば、よいのではないかと思いました。新しいことに取り組むのに適した授業だったと思います。
- 先生の説明が少なかつたような気がしました。「誰かに言ってたけど、聞いていない」、という人もいたので・・・。
- 時間も十分にあり作業も順調にできた。
- 非常に面白かったです。楽しく制作できました。作業場所がせまく少し窮屈に感じました。
- 全ての作業がはじめてで、色々失敗したりと大変ではあったけれど、粘土や石膏を使うの

はたのしくて、作品も一応完成させることができて良かった。

- 楽しかったです。ただちょっと石膏と戦っていた記憶が多いです。石膏と和解したいです。

③今回学んだこと、それを今後どのように生かしたいか

- 「かたまりを把握する」というのは非常に大切なことだと思いました。似てるか似てないかではなく、強く存在しているかいないかですね！
- 私の場合、客観的な視点と、全体把握の意識が、弱かったと思う。三次元空間を把握したい。立体のリアリティ、スペース感を養いたい。
- 全てのものを作る機会に生かせると思う。また挑戦したい。
- 粘土で立体を作るのは、いつものデッサンと違い新鮮でした。いつもより問題がはつきり出るなと思いました。立体と平面を交互にやると効果的かもしれないと思ったので、これから平面だけでなく立体もたまにはやってみようと思いました。
- 空間を意識したいと思った。
- 今後の制作に、学んだ新しい視点を反映させたい。
- 平面基礎で指摘されたのと同じ点が問題になったので、これからもっと丁寧に考えながら制作したいと思いました。
- 今回の制作で、自分の作品をあまり客観的に見ていなかったし、概念を排除できていなかったことに気が付きました。また、そんな自分の態度に薄々気が付いていながらも、きちんと向き合おうとしていなかった自分の甘さを感じました。

8. まとめ

施設・設備については、これまでも重点課題として、改善に取り組んできたが、今回は耐震補強工事のため、別の実習室でおこない、制作台の転倒という事故が発生した。今後、有効な空間利用をはかるとともに、心したい。

授業内容については、学生にとって未経験の取り組みであり、また基礎をしっかり学びたいという前向きな気持ちもあって、概ね肯定的な記述になっている。